

## 望年山行 小怒田ノ尾根～千足尾根、湯久保尾根～御前山～中尾根

(山 域) 奥多摩・北秋川

(日 時) 平成 28 年 12 月 10(土)、11 日(日)

(天 候) 晴れ

(参加者) CL 柘植 (車)、SL 佐藤 (車)、鶴田(11 日は岩組)、加藤、鈴木憲、菌田、石橋、川上 (記録)

(コース) 10 日 千葉みなと中央発→払沢の滝駐車場 (駐車) →千足→小怒田ノ尾根→富士見台→つづら岩→千足尾根→茅倉集落→払沢の滝駐車場

11 日 ロッジ神戸岩→久保尾根→御前山 (1405 ㍎) →クロノ尾山→中尾根→ロッジ神戸岩裏→千葉

(山行タイム) 10 日 千葉発(柘植車)6:00→払沢の滝駐車場着 8:05→千足尾根取り付き 8:55→高黒岩基部 11:00→富士見台 12:15→千足尾根分岐(大休止)13:15→茅倉集落 14:00→駐車場 14:30

11 日 ロッジ神戸岩 7:50→やぶ尾根取り付き 7:55→尾根上の登山道 9:05→湯久保尾根 1069m 地点 10:30→御前山山頂 11:25→クロノ尾山 12:25→ロッジ裏手駐車場 13:45

(山行報告)

今年 6 月にちば山の会に入会したが、会山行には参加する機会を逃していたため、初めての参加となった。道の無いやぶ山を、それも二日間も歩き通せるかどうか自分をテストする気持ちでのぞんだ。



払沢の滝駐車場に車を置き、準備体操をしたあと 8 人で歩き出す。国道 205 号を 1 ㍎ほど歩いて北上し、千足のこけむした石段を登って、いよいよ山行が始まる。腐葉土でふかふかの斜面には腐った倒木も無造作に折り重なっていて、相当な急傾斜だ。ふくらはぎが伸びて少し痛い感じだし、前を行く佐藤 SL の鮮やかなシューズは目の前で動き回っている。すぐに額から汗が流れ落ち始める。



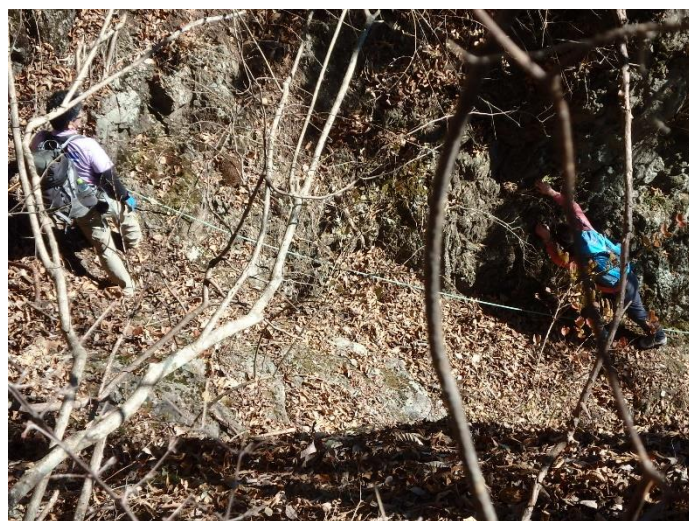
途中 2 回ほど小休止をはさみながら、ひたすら北をめざすと、高黒岩の基部に着いた。手元の高度計で 866 ㍎。高さ 30 ㍎以上ありそうな岩場の左側にルンゼが伸びている。傾斜が比較的ゆるいため、佐藤 SL の確保で柘植 CL がルンゼ内を登り、ロープをフィックスする。後続者は持参したシュリングでロープにプルージックを取り、一人ずつ通過した。「いきなりロープのお出ましか。ちば山って、すごいかも」となぜか笑ってしまった。

結局ここが一番の難所で、間もなく尾根上に



延びた登山道に出くわす。小休止のあと、この小道を北上する。

富士見台に着くと、文字どおり真っ白な富士山が大きな姿を見せてくれた。左に富士山を見ながら木立の中の馬頭刈尾根の歩きが続く。ふかふかの落ち葉と快晴で、さっきまでの苦しい登りがウソみたい。岩登りの練習場でもあるという、つづら岩を通り過ぎ、千足尾根を下山した。



翌11日は楽しく過ごしたロッジ前に車を置いたまま、100mほど車道を下った辺りから湯久保尾根をめざして、やぶの斜面に取り付く。前夜の望忘会ではおいしいたくさんの料理についてアルコールが増えてしまい、やはり軽い二日酔いだ。昨日の登りで両脚を中心に筋肉痛もあり、まさにダブルパンチ。できるだけ早くアルコール分を抜こうと、深い呼吸を心がけた。



午前9時過ぎ、尾根道に出る。手元の高度計で781m。湯久保尾根らしい。これから先は尾根道歩きが続くというが、「今日は昨日より1時間、行動が長いですよ」とアドバイスされ、緩みかけた気を引き締める。明るい陽光に照らされた尾根歩きは気分がいい。だが気温は低く、吐く

息が白く見える。大休止の時、ザックに付けた温度計を見ると7～8度だった。



歩き始めて4時間半ほどで御前山の山頂に着いた。広い山頂に周辺の案内板やベンチなどが整備されていて、ほかの登山者も写真を撮ったり行動食を食べたり。われわれもゆっくり大休止して下りに備えた。クロノ尾山から東南に伸びる中尾根の上部は、尾根が広がっていたり、伐採作業があるためか、登山道が一部不明瞭になったりしていた。だが、終始先頭を歩いた佐藤 SL が的確にコース取りしてくれた。下部は杉林の急斜面に付けら

れたジグザグ道だったので、登りコースでつかったら相当バテそうだな、このまま転ばないように降り切れますように、などと唱えながら歩いていた。

下山後は前日も立ち寄った豆腐屋（払沢の滝入り口バス停の前）に立ち寄って豆乳や湯豆腐で小腹を満たしたあと、帰路についた。

(以上)